

生き物のような川

栗橋小学校 五年一組 小林 琉夏

私は、小学校五年生と四年生の夏休みに、群馬県神流町の川に遊びに行きました。

四年生の時は天気が良く、川の水もきれいで、小さい魚が泳いでいるのが見えたり、岩の上から飛び込んだりして楽しく遊びました。しかし、五年生の時は、悪い天気の日が続いて、川の流れが強く水もにづいていて、四年生の時ほど遊べませんでした。同じ川の同じ場所なのに、天気などによって全然ちがう川のように感じた。

私の住む久喜市栗橋でも、利根川という大きな川が流れていて、天気や季節によって、水の量や流れの速さがいつも変化しています。まるで、川は、生き物のようだなと思います。きっと、昔の人たちもそう思ったから、川に名前をつけたり、川の神様をまつるほどにながれを作り、生活をしてきたのかなと思います。

現代では、川の災害を防ぐ工事などが行われて、川を生き物として考えることは、ほんではないと思います。

でも、大雨などで水があふれたり、逆に水が少なくなったりして、たりすることで、私たちの生活に、大きなえきょうが出ることもあります。

川と、私たちは、しょくに生活をする生き物の仲間のように感じます。

埼玉県は、海のない県ですが大きな川が何

本も流れていて、その川を利用して、わたしたちはかいてきな生活ができています。ババこのかいてきな生活が続くように、川にゴミを捨てないで、植物や動物を大切にしていっまでも、安全で楽しい川との生活を続けたいと思います。